

エマ・ヴェルデ生誕祭2020

『シュウヤ』

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

エマちゃんハッピーバースデー！

エマ・ヴエルデ生誕祭2020

目

次

# エマ・ヴエルデ生誕祭2020

「——果林ちゃん、朝だよ起きて～」

「んん～……あと五分だけ寝かせて……」

「その五分待つたんだよ～」

「そんなの私が認めないわ……」

「はいはい、起き上がつてね～。パジャマ脱いで、制服に着替えるよ

」

「んん～……」

「寮の美味しい朝～はんが無くなっちゃうよ～」

「それは困るわ……。朝にフルーツでビタミン摂るのが、美容に一番

なのよ……」

「靴下履かせるね～」

「——毎朝悪いわね、エマ」

「気にしなくていいよ～。私がお世話したくてやつてるだけなんだから。イススの妹達の事思い出しちゃうんだ～」

「……私で哀愁感じられてもね」

「——おや～？ 果林ちゃんにエマちゃん、おはよ～。今日も一緒に登校だねえ」

「あら彼方、おはよう」

「おはよう、彼方ちゃん」

「エマちゃん、今日は誕生日だ～。おめでと～」

「…………！」

「わ、覚えててくれたの？ 彼方ちゃんありがとう～」

「いつも膝枕してもらつてるし、特別に彼方ちゃんイチオシのお昼寝スポットを教えてあげちゃうのだ～」

「一番にお祝いしてもらえて嬉しいよ～」

「ん……？ 一番……？ 彼方ちゃん、一番最初だつたの？」

「そうだよ～？」

「え、エマ……その……」

「果林ちゃん、さつきからずつと一緒にいたじゃん？」

「うん、今日も起こしてあげたよ」

「じゃあ起きた瞬間から一緒だ。……もしかして果林ちゃん、誕生日の事忘れてたの？ 同好会の仲間だよ～？」

「ち、違うのよ。ホラ、私って朝弱いでしょう？ だからいつも通りの日常でついうつかりしてたっていうか……」

「やつぱり忘れてたんじやん」

「うう……ごめんね、エマ」

「気にしないで、果林ちゃん。ちゃんと気持ちは伝わってるし、お祝いしてくれた順番も関係ないよ。だから、ありがとう果林ちゃん！」

「エマ……」

「エマちゃんの包容力は、やつぱり彼方ちゃんが最高に眠くなる威力を秘めてる気がするー。ぐう……」

「わ、彼方ちゃん通路で寝たら危ないよ。教室までもうちょっと頑張る？」

「……そ、そうよね、今日はエマが主役なんだし、今からでもちゃんとエマの為に動かないと！」

「果林ちゃん？」

「意気込んでるけど、どしたの？ 空回りして、また迷子になつたりしないでよー？」

「エマ！ 改めて言わせてもらうわね。お誕生日おめでとう！」

「うん、ありがとうだよ～」

「それでね、やつぱりエマも自分の為に時間を使うべきだと思うのよ。だからこれを機に、私も自分一人で起きられるよう努力してみる。だからもう、エマの助けは

「いらないの？」

「……うえ？」

「果林ちゃん、もう、私にお世話をさせてくれないの？」

「え？ いや、でも、エマもスクールアイドルとして自分を磨く為の時間だつて必要でしょう？」

「私、 果林ちゃんのお世話に生きがいを感じてるんだよ……？」

「そ、 そこまで言つてたかしら……？」

「 果林ちゃんのお世話ができなくなつたら、 私……明日から何を楽しみにすればいいの？」

「エマは何しに日本まで来たのよ……？」

「 果林ちゃん、 私、 今日誕生日なんだよ……？ お願い、 聞いてくれないの……？」

「う……どうして逆転してるのかしら……？」

「 果林ちゃん……」

「わ、 分かつた、 分かつたから！ そうやつて覗き込むのは反則よ。

……エマの好きにすればいいわ」

「わあ……！ ありがとう果林ちゃん！」

「はあ……私もまだまだね」

「 果林ちゃんのお世話から始まつて、 今日もいい天気になりそうだね  
」

「私で天気予報しないでよ」

「——やれやれ。 今日も平和で、 絶好のお昼寝日和。 授業の時間まで、 彼方ちゃんはゆつくりお休みするのだ」